

B GUIDANCE

2020年5月号

麻薬密輸の防止

船舶は、違法麻薬を輸送する際の手段として密輸業者から標的にされる可能性があります。

本ガイダンスでは、船舶が麻薬密輸に誤って関与しないための重要な対策をご紹介します。

ある加入船がメキシコの港を出港した直後、岸壁から1海里ほど離れた時点で2人の侵入者が3つの小包を海に投げ込み、その後自らも飛び込む姿が確認され、小包と侵入者はいずれも小型のボートに拾い上げられました。そして、後日の調査から、侵入者はターミナルの作業員を装って乗船していた可能性があることが判明しました。

この事件では、本船やメンバーがメキシコ当局からそれ以上の行動を起こされることはありませんでしたが、最近報告された別の事件では、船上で違法麻薬が発見されて本船が拘留されたケースも複数あり、中には、船長や他の船員が後日、収監されてしまったケースもあります。ある船長は、正式な起訴も受けずに何ヵ月も収監されました。言うまでもなく、巻き込まれた船員やその家族にとって、こうした状況は精神的に大きな負担となります。

上記のような事件から、残念ながら海運業界は、主に米国や欧州市場への麻薬輸送の手段として船舶を使おうとする密輸業者の格好の標的になっていると言えます。そのため、船内に麻薬が持ち込まれないように相当の注意を尽くしていることを示し、適切な対策を講じることが重要です。

密輸の方法は多種多様です。中には非常に巧妙な手口もあり、そうした手口は基本的に船員が気づかないうちに実行されます。

クラブに最近報告された密輸方法には、以下のようなものがあります。

- 貨物と一緒に、または貨物の中に隠す:この方法は、貨物やカーゴホールドに近づきやすいほど容易になります。ドライ貨物船で特に多く見られる手口で、ホールド内のばら積み貨物の中に埋める、コンテナの中に隠す、といった形がとられます。自動車専用船(PCTC)や車両輸送用に設計されたその他の船舶にも特有のリスクが伴います。特に後者は、エンジンルームや燃料タンク、さらにはタイヤ内部など、車両内の各所に人目につかず容易に麻薬を隠すことのできるさまざまな条件が整っています。
- 「本物の」ステベドア、あるいはステベドアなど陸上側の関係者を装った者が船内に持ち込み、隠す。
- 麻薬を入れた防水性の筒を、ダイバーが水面下の船体に貼り付ける:これは南米で報告されている手口です。主に欧州や米国などその後の寄港地のどこかで、筒を船体から取り外すことを前提として行われています。
- 水面より上にある、舵とプロペラ間の船尾骨材のアイプレートに麻薬入りの小包を貼り付ける:最近では、加入船がペルーに寄港した際、早朝に本船の近くで作業をしている小型ボートを見張り当直が発見する事件があり、連絡を受けた港湾当局が船体を検査した結果、アイプレートからぶら下がっている不審な小包が発見されています。
- 船舶の係留中や錨泊中に開放型ラダートランク周辺のボイドスペースに侵入し、麻薬を隠す。

このような多様かつ巧妙な手口を見ると、密輸業者は麻薬の輸送のために手段を選ばないため、メンバーや船員の皆さまも決して警戒を怠ってはならないことがよく分かります。

船舶での麻薬密輸を防ぐために講じることのできる簡単な対策としては、以下のようなものが挙げられます。

1. 密輸活動が確認されている地域に配船する場合、またはそのような活動が行われる懸念がある場合は、港や錨地に到着する前の早い段階で、現地のコレスポンデントや代理店、当局に連絡を取り、密輸の潜在的リスクに関する最新情報を入手しましょう。情報を入手することで、船舶保安計画(SSP)¹に基づいて保安上の潜在的リスクに関する評価・検証を行い、想定されるリスクと当該港一帯の指定保安レベル²に沿った適切な軽減策を確実に講じられるようになります。ある港で特定のリスクが確認されている場合は、陸上側に協力してもらい、麻薬探知犬やダイバーを手配して出港前検査を強化するなど、体制を整えることができます。
2. 出港にあたっては、最後の防止策として、侵入者がいないか徹底的かつ体系的な搜索を行いましょ。
3. すべての訪船者を対象に適切な身元確認を行い、乗下船を厳重に管理するようにしましょう。乗船希望者に対しては、写真付き身分証明書や作業指示書などをチェックして、必ず身元と乗船目的を確認してください。身元や乗船目的を明かさずとしない人や確認できない人については、乗船を拒否しましょう。そのような人がいた場合は、船舶保安管理者(SSO)、会社保安管理者(CSO)、港湾施設保安管理者(PFSO)ならびに陸上側関係当局に適宜報告が必要です。陸上側関係当局に対しては、現地代理店を補佐・連絡役にするとよいでしょう。
4. ステベドアをはじめすべての訪船者の訪船記録と、その活動記録を残しておきましょう。
5. 乗船希望者全員を対象に、無作為の検査を行いましょ。検査は、港湾施設が船舶と密に協力して船舶の近くで行うのが理想的です。検査の際は必ず本人の人権を十分に考慮し、人間の基本的尊厳を守ることが必要です。

1 船舶と港湾施設の保安のための国際コード(ISPSコード)の規定に基づく。

2 ISPSコードは3段階の保安レベルを定めており、適用される保安レベルの決定は、港湾施設がある領土の締約国が担う。

6. 無断侵入を防ぐために施錠や見張り配置が必要なアクセスポイントをすべて割り出し、監視しましょう。監視カメラ（CCTV）が設置されている場合は、アクセスポイント付近における活動の監視・記録を強化する手段として使用できます。
7. 港内にいる間や錨泊中は、頻繁に見回りをするなど常に監視を行いましょう。付近の陸地と海上の監視も必要です、特に海上については、周囲を航行しているボートがないか警戒し、不審な活動が見られる場合はSSOに報告してください。
8. カーゴホールドが満載状態の場合などは特に注意し、ハッチカバーが閉まる直前に貨物の上に小包が置かれていないか確認しましょう。貨物の不正取り扱い防止のためにコンテナシールなどを使用してください。空のコンテナや上部や側部が開いているコンテナは小包を置きやすいため、特に注意が必要です。
9. 港内にいる間は、居住区や甲板倉庫などの場所を施錠しておきましょう。
10. 夜間や見通しの悪い時に船陸間の接触作業を行う場合や、港湾施設や錨地で停泊している場合は、甲板部やアクセスポイントを常に照明で照らしておきましょう。可能であれば、船側も照らしてください。
11. 車両をはじめ積載予定の貨物の中を可能な範囲で探索しましょう。車両については、港湾施設と連携して探索するのが理想的です。麻薬探知犬を利用できる場合は、探索強化に役立つため、導入を検討してもよいでしょう。
12. 舵区画へ通じる開口部の上に鉄格子の設置を検討しましょう。また、出港前に舵区画を入念に探索しましょう。

不審な小包や品物が船上で見つかった場合は、事前に策定が求められていた緊急時対応計画を発動させるために、メンバーの陸上事務所に直ちに連絡しなければなりません。船長が状況対応に役立つ詳しいアドバイスを受け取れるよう、クラブをはじめとする関係各所への速やかな連絡を徹底することも必要です。

不審な小包の写真や動画を撮影しておくことは、その小包がどこでどのように見つかったかを示す証拠になります。ただしその際は、密輸に関与していると後で訴えられないようにするため、触ったり、勝手に開封したりしないようご注意ください。発見現場は立ち入り禁止にして見張りを立て、当局が到着した際は必ず全面的に協力してください。

最後に、船員は自身の身の安全を常に最優先に考えることが重要です。密輸業者はその活動の性質上、物騒であり、武装している場合もあります。そのため、直に接触することは極力避け、当局に対応を任せることが望ましいです。

詳細

ご質問がある場合や、麻薬密輸リスクの軽減方法に関して詳しいアドバイスをお求めの場合は、ブリタニヤのロスプリベンションチーム (lossprevention@tindallriley.com) までお気軽にご連絡ください。

免責事項

本レポートは、THE BRITANNIA STEAM SHIP INSURANCE ASSOCIATION EUROPE (クラブ) が発行したものです。

執筆時点での情報の正確性には万全を期していますが、これらの情報の完全性または正確性についてはいかなる責任も負いません。本レポートの内容は法的助言ではないため、個別の問題に関して具体的な助言が必要な場合は、必ずクラブにご連絡ください。

(翻訳)ブリタニヤ・ヨーロッパ日本支店

こちらは英文の日本語訳です。日本語訳と英文の間に齟齬がある場合は英文の内容を優先くださるようお願い申し上げます。